



グローバル経済下における食の世界



伊賀 聖屋（地理学）

食の領域におけるグローバル化は、工業化と強い関わりをもちながら展開してきたという一面をもっています。もともと食は、「自然的なものと人工的なものの混淆物」であり、無機的・人工的要素が多くを占める工業製品の場合に比べて、生産・流通を取り巻く「自然環境」や動植物そのものが有する「生物学的要素」によって影響を受ける度合いが強いといわれています。その

ため、世界規模での食料の安定的かつ効率的な供給を実現するためには、食固有の自然的要素（＝腐敗性や季節性など）が食料供給に与える影響を最小化する必要があります。食の工業化は、食料供給プロセスの一部に工業的な要素を組み込んだり、食料そのものを工業的なものに置き換えたりすることで、自然的要素に対する人間の制御能力を高めてきました。

ところが、そのような食の工業化・グローバル化の進展は、様々な課題を人間社会へともたらすようになっています。とりわけ、自然の摂理を無視した工業的な食料生産は、環境負荷や食の安全などをめぐる問題を引き起こしてきました。このような状況において、近年はグローバル化・工業化した食料供給のあり方に対するオルタナティブを模索するような動き（たとえば、環境保全型農業や公正貿易など）が先進国を中心とした世界各地でみられるようになっていきます。そして現代の食の世界は、ますます互いに異質な生産の空間から構成されるようになっていきます。私はこのような食の世界における異質化（＝多様な空間の生成）がいかにして展開するのかを、人間、自然物、技術の連関やそこから生み出される人間の行為などに着目しながら明らかにする研究に取り組んでいます。



（写真は調査対象のエビ養殖池 [インドネシア・東ジャワ州シドアルジョ県]）

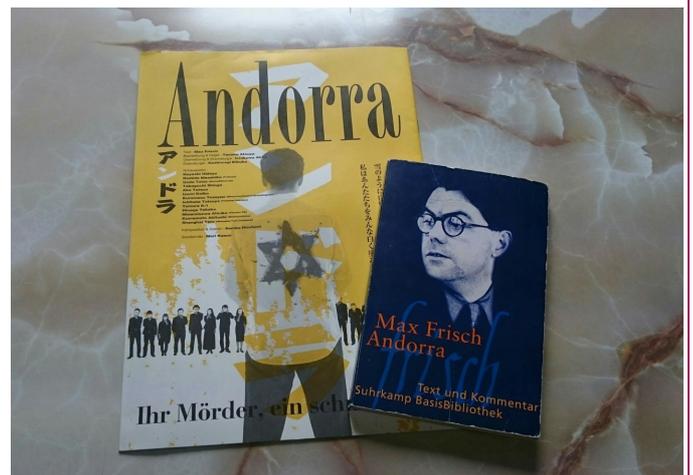
分野・専門紹介—File46

戯曲を読む（ドイツ文学演習）

分野・専門名：ドイツ語ドイツ文学

皆さんはミュージカルやオペラも含め、劇を見たことはありますか？ 劇にはもちろん台本が存在します。そういった台本のなかで文学性が高く、芸術的に独立した性格をもつものを戯曲と呼びます。ドイツ語ドイツ文学研究室では、小説や詩のみならず戯曲も研究対象としています。

ドイツ文学演習という授業では、20世紀に活躍したスイス人作家マックス・フリッシュの戯曲『アンドラ』



を扱いました。ドイツ語の原文を持ち回りで訳しながら、全員で内容について考察します。小説とは異なり、戯曲にはあまり登場人物の内面描写はありません。そのため、短い台詞の訳であっても、メンバーによって解釈が異なることが多々あります。どのような調子でその台詞を言っているのか、またその人物がどのような表情を浮かべているのか。そういったことで受け取る印象は大きく変わるため、授業毎の議論の種は尽きません。実際に上演された舞台の演出を参考にしつつ、解釈することもあります。もちろん、演出家によっても、細部の解釈は異なります。様々な解釈について話し合うことで、より作品の世界が広がっていきます。戯曲を読むということは、自分も演出家の一人になって、劇を作り上げていくかのように感じられます。

文学研究は、何も一人きりで黙々と原文を訳していくわけではありません。仲間と一緒に議論していくことは、より作品の理解を深めてくれます。また戯曲を読むという経験は、これまでに見たそしてこれから見る劇をより面白くしてくれるかもしれません。ある作品について皆でとことん深めていく、これが大学で文学研究をすることの魅力の一つではないでしょうか。

(学部4年・伊藤 望)

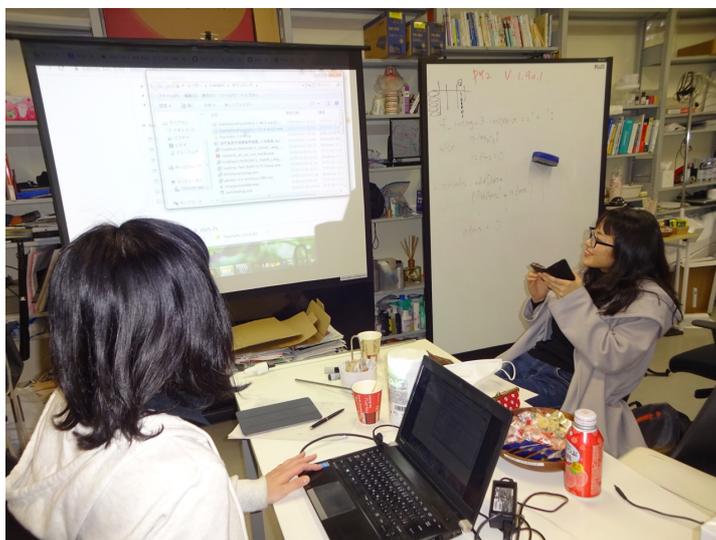
分野・専門紹介—File47

言いよどみ現象から見る言語処理

分野・専門名：英語教育学

私は、英語で発話する時に発生する言いよどみという現象について研究しています。言いよどみというのは、英語の場合は uh, um, ehなどを指します。

言いよどみが起きる時、話者は何を困難であると感じていて、その問題をどの様に克服しようとしているのかを知るために、第二言語習得研究では幾つかの実験が行われています。例えば、英語学習者に英語で発話をしてもらい、録音した発話を一緒に聞きながら、言いよどみが起きた時にどのような事を考



えていたか尋ねる、という方法があります。これまでの研究により、言いよどみは、話者がそれまでの発話を振り返っている時や、その後の発話内容や語彙・文法を考えている時に多く発生する事がわかっています。私は、母語と第二言語において、言いよどみが発生する要因がどの様に異なるのかに興味を持っています。

また、言いよどみのある発話を聞いた時、聞き手の理解にどのような影響を与えるのか、という問題にも関心があります。母語による発話を聞く時、言いよどみが発生する事が聞き手の理解に影響を与えと言われています。第二言語を聞く時、どのような言いよどみが理解しやすさを促進し、また妨げるのかが解明されれば、英語学習者がスピーキングを練習する時に、どのような言いよどみに気を付ければ良いのかわかります。

人は頭の中で言語をどの様に処理しているのかを知る事により、どのような指導をすれば言いよどみの少ない発話になるか、また、理解しやすい発話ができるようになるのかを解明して、言語教育に貢献したいと思っています。

(博士後期課程3年・小林 真実)

最近の文学部

8月9日、名大文学部でお会いしましょう！（オープンキャンパス）

名大文学部には、実に様々な学問分野を学ぶカリキュラムとスタッフが揃っています。大学院（人文学研究科）に進むとさらに専門性の高い多くの選択肢が待っています。そのほんの一端をご紹介しました。もっと詳しく知りたい方、大学キャンパスの実際の雰囲気を知りたい方、8月9日、お待ちしております！（YK）

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...
名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）